

## ノスタルジアあるいは幼児的帰還への幻想

映像学科

李 容旭

## Nostalgia or Fantasy of Return to Infancy

Department of Imaging Art

Lee Yong Uk

「自分は赤と青とで人間の恐るべき情念を表現したい」

ヴァン・ゴッホ

「ノスタルジアあるいは幼児的帰還への幻想」は第4回現代美術作家と身体表現者と映像作家とのコラボレーション ACKid 2009 協同・現代美術+映像+身体パフォーマンスの企画に参加した作品である。パフォーマンスは2009年4月21日(火)夜7時キッド・アイラックアートホールにて行われた。李は全体の構成と造形、映像を担当、身体表現者別所るみ子との協同であった。

今回、造形のテーマは竹、色は画家ゴッホから刺激され、赤と青を持ち込む。両色からは、

赤：陽、天、動脈、男

青：陰、地、静脈、女をイメージしている。

竹の造形は赤と青色の布により制作。

会場は高さ約6メートル。竹の造形は5メートルから3メートルのバリエーションで3セット制作。

付属して設置された(天井から吊るされている)5羽の鳥造形はカラスのイメージからきている。

パフォーマンスは

①暗闇から口ウソクの灯かりへ

②動く身体(別所るみ子)

③ポラロイドカメラによる切り取り(李)

④動く身体(別所るみ子)順に行われた。

今回のパフォーマンスは生身の身体と映像との関係、創られた造形空間と映像、身体との関係、そしてその全体の空間と観客の関係など、かなり複雑な諸要素を同時に扱う試みであった。パフォーマンスの中盤、ポラロイドカメラを持ち込み動く身体を切り取ることで、切り取られた身体はその場に捨てられ、パフォーマンス終了時には過去の時間として観客に提示された。動く身体にポラロイドカメラが介入することで観客は強制的に映像の切り取りを意識することとなる。安定していた「いまここに」の時間と空間はカメラの介入により複層的な時間と空間になり、観客を複眼的世界へ誘う。リアルな生身の空間とイメージの映像空間が入り混じる。観客は時空間の亀裂による隙間で戸惑い、揺れ動き、かく乱される。

もう何もかも信じられない時代だ。  
一瞬にして全てが壊される恐怖。  
あすの保証書はどこにも見つからず。  
今日の意味は明日(あす)からは見出せない。  
夢を見る。  
川につづく小池。  
底の青空に心が躍る。  
生と死の切れ目。  
.....  
夢を見る。  
それは果てしない深遠の中。  
.....  
僕らの旅はつづく。  
それは権利  
よりは義務に近い。一寸だけの微笑を忘れずに

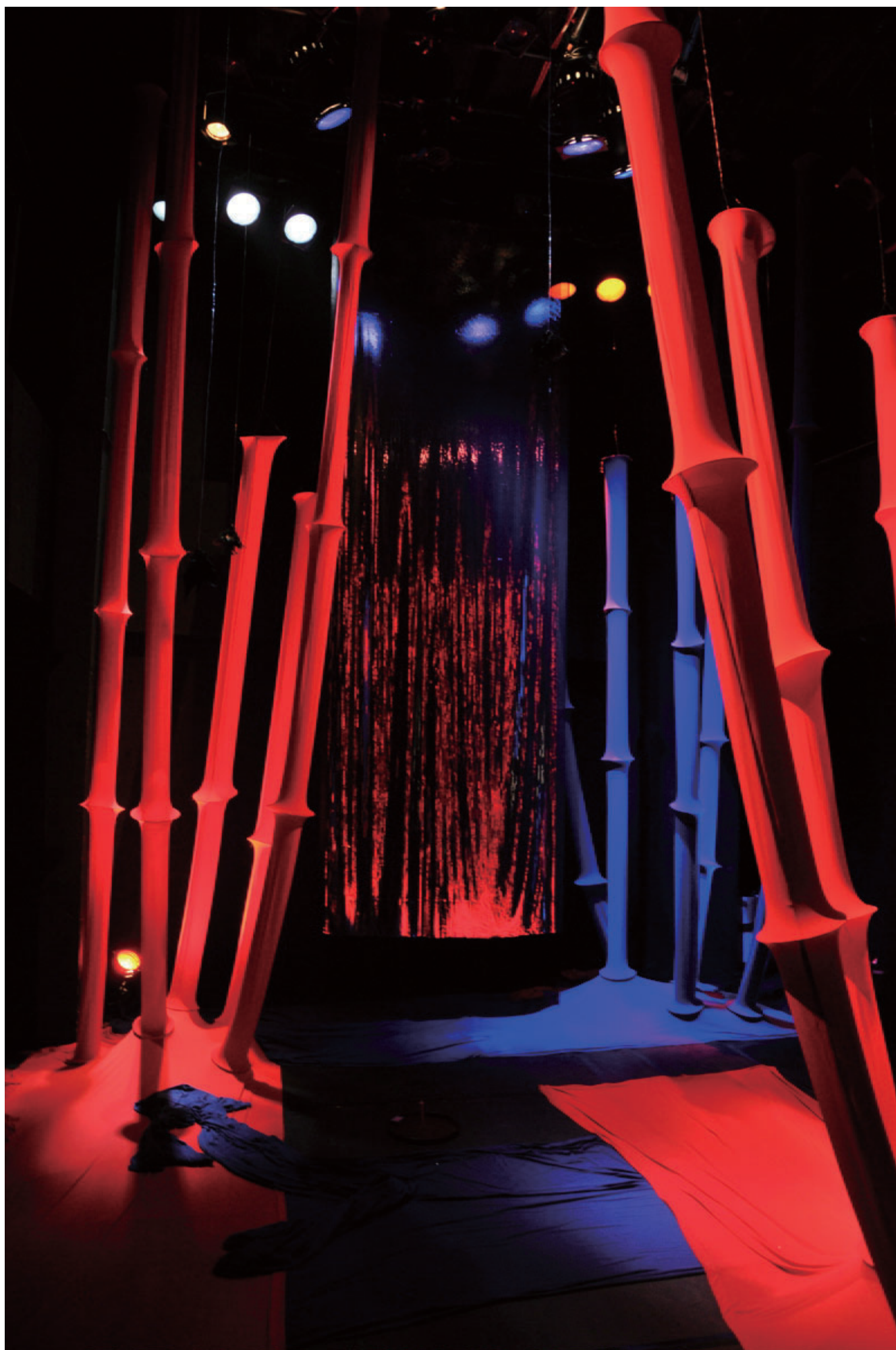
2008年作品「沈黙の断片」から

身体表現：別所るみ子

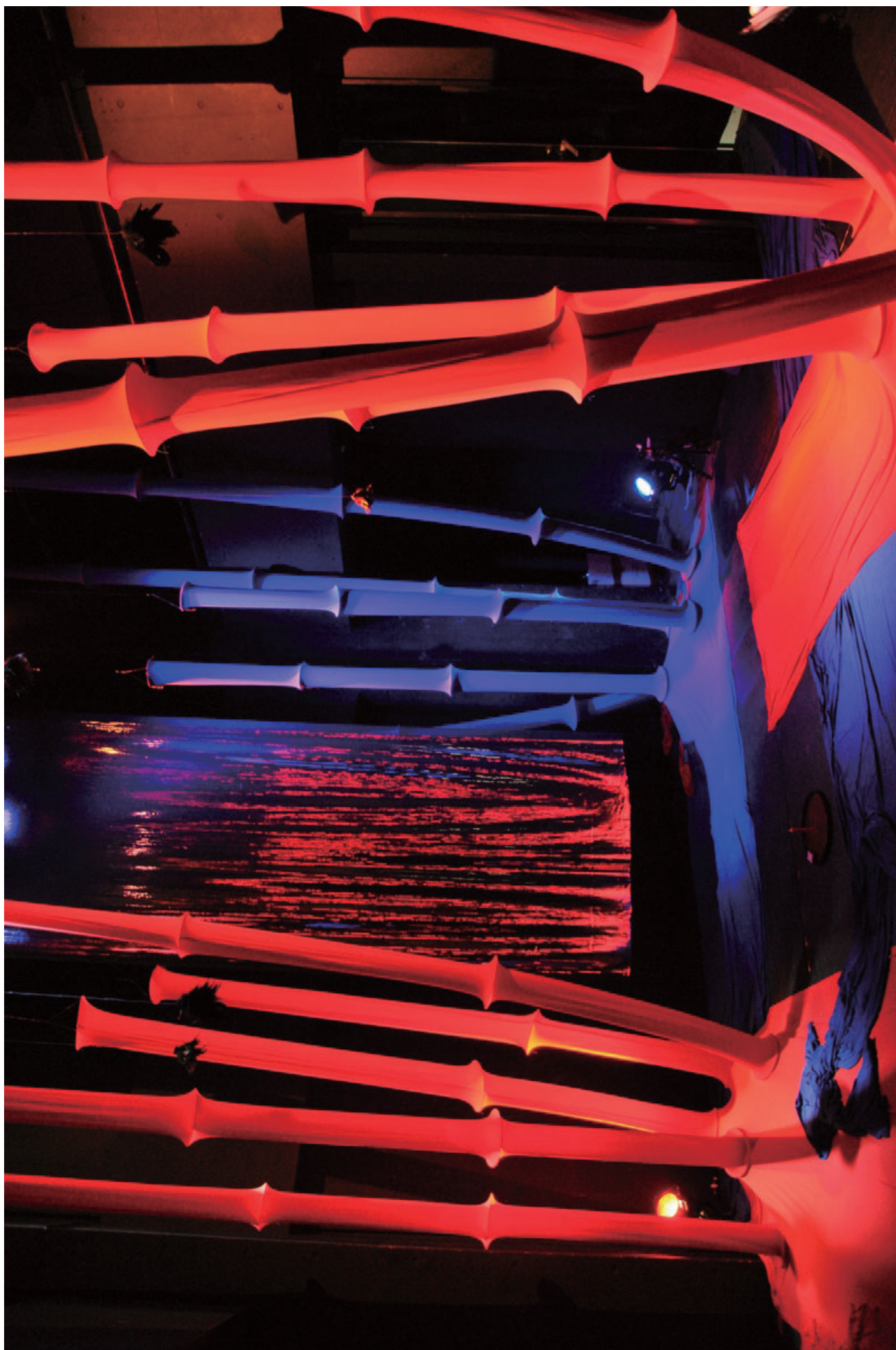
サウンド：河合孝治、鈴木奈緒

アシスト：倉石健一朗

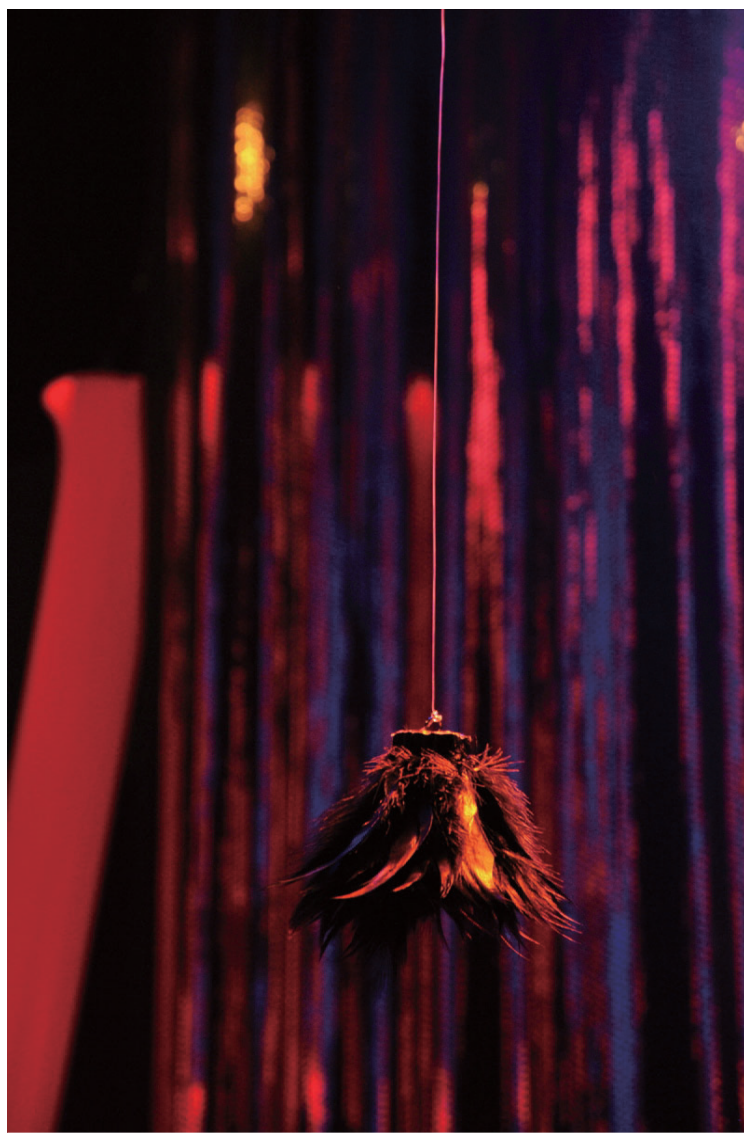
記録：川上直行、関 健一



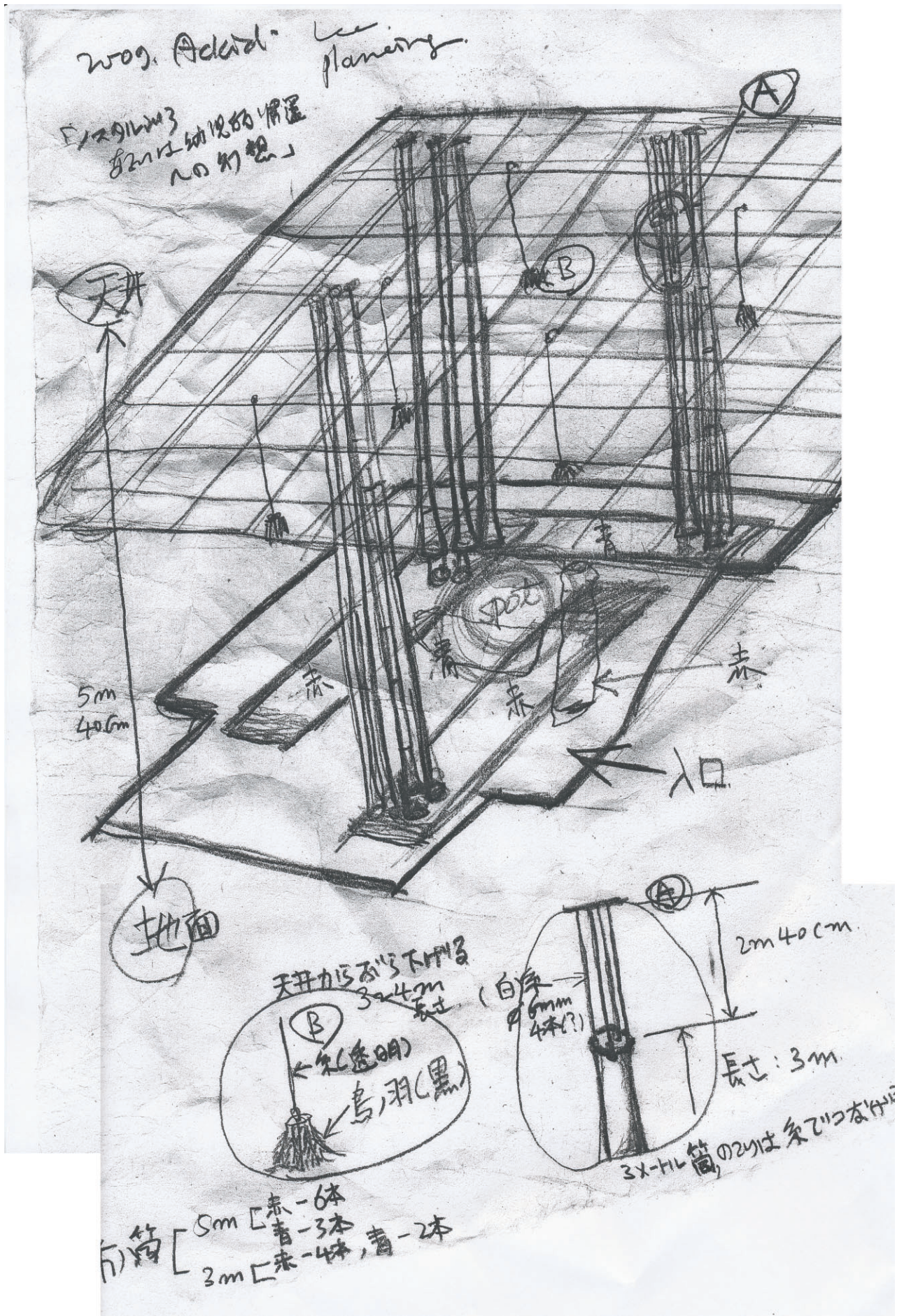
















ACKid2009

lee090407

time Table

	start				end
		1 2'	2 3'	3 4'	4 5'
Light	ロウソク 1 本	中央にスポットライト FI	右奥ライト追加 地面から天井へあおり 入口の方向	右奥ライトは F0 3 回所の筒ごとに 1 個のスポットライト 1 個ずつ順番に	F1: Fade in F0: Fade out
別所	ロウソクもちで 登場、筒を照らす。 何かを探すよう	退場	ライトが FI する前舞台の真中へ。 FI 後、静から動へ		
李	右奥に構える		ボラロイドカメラとともに登場 撮影 被写体: 別所、観客、造形 地面に散乱	退場	
sound	サイレント	環境音 (自然) 水、風	環境音 (自然) 電子音	環境音 (自然)	順音 (ピアノ)

For ACKid2009 by lee

パフォーマンスタイムテーブル



パフォーマンススタート→







